

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-08-0002_改0
提出年月日	2021年6月15日

工事計画に係る説明資料

原子炉格納施設のうち原子炉建屋

(本文)

2021年6月

東北電力株式会社

申請範囲

7. 原子炉格納施設

7.2 原子炉建屋

- (1) 原子炉建屋原子炉棟
 - ・原子炉建屋原子炉棟（二次格納施設）
- (2) 機器搬出入口
 - ・原子炉建屋大物搬入口
- (3) エアロック
 - ・原子炉建屋エアロック
- (4) 原子炉建屋基礎スラブ
 - ・原子炉建屋基礎版

7.2 原子炉建屋

(1) 原子炉建屋原子炉棟

			変更前	変更後
名 称			原子炉建屋原子炉棟 (二次格納施設)	原子炉建屋原子炉棟 (二次格納施設) *1
種 類	—		鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋コンクリート造及 び鉄骨造)	変更なし
設 計 気 密 度	%/d*2		50 以下 (6.4 mm Aq の負圧における原子炉 建屋原子炉棟容積に対する空気 漏えい率)	
主 要 寸 法	た て × 横	m	66.0×53.0*3 (地下3階面, 壁外面寸法)	
	高 さ	m	地上 35.7, 地下 28.9	
壁 厚 さ	東 壁	mm	250~1800*3, *4	
	西 壁	mm	250~1800*3, *4	
	南 壁	mm	250~1800*3, *4	
	北 壁	mm	250~1800*3, *4	
材 料	—		鉄筋コンクリート及び鋼材	
個 数	—		1	

注：記載の適正化を行う。既工事計画書の「主要寸法（基礎版厚さ）」の記載を削除。

注記*1：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（非常用ガス処理系，原子炉建屋水素濃度抑制系）と兼用。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「%/day」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：既工事計画書には記載がないため記載の適正化を行う。

(2) 機器搬出入口

			変更前	変更後	
名称			原子炉建屋大物搬入口*1	原子炉建屋大物搬入口*2,*3	
主要寸法	たて×横		mm	5400×5500*4,*5	変更なし
	扉体*6	たて	mm	—	6230*5
		横	mm	—	6920*5
個数			—	1	変更なし
種類*6			—	—	片開き扉
材料*6	扉板		—	—	SS400
	芯材		—	—	SM490
取付箇所*6	系統名 (ライン名)		—	—	—
	設置床		m	—	原子炉建屋 O.P. 15.00
	溢水防護上の 区画番号		—	—	—
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ		—	—	—

注記*1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*2：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（非常用ガス処理系，原子炉建屋水素濃度抑制系）と兼用。

*3：浸水防護施設のうち内郭浸水防護設備と兼用する。

*4：躯体開口寸法を示す。

*5：公称値を示す。

*6：浸水防護施設のうち内郭浸水防護設備に使用する場合の事項を記載。

(3)エアロック

			変 更 前	変 更 後
名 称			原子炉建屋エアロック*1	原子炉建屋エアロック*2
主 要 寸 法	たて×横	mm	*3, *4 2000×1000 (外側) 2000×1000 (内側)	変更なし
			個 数	

注記*1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*2 : 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（非常用ガス処理系，原子炉建屋水素濃度抑制系）と兼用。

*3 : 躯体開口寸法を示す。

*4 : 公称値を示す。

(4) 原子炉建屋基礎スラブ

			変更前	変更後
名 称			原子炉建屋基礎版*1	変更なし
種 類	—		鉄筋コンクリート造*2	
主 要 寸 法	た て × 横	m	77.0×84.0*2,*4	
	高 さ*3	m	6.0*4	
	底 面 の 標 高	m	0. P. -14. 1*2,*4	
材 料		—	鉄筋コンクリート*2	

注記*1 : 既工事計画書には記載がないため記載の適正化を行う。既工事計画書では原子炉建屋原子炉棟（二次格納施設）に記載。

*2 : 既工事計画書には記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*3 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「基礎版厚さ」と記載。

*4 : 公称値を示す。